

第4回
小松市未来型図書館基本構想策定委員会
未来型図書館の立地候補エリアについて

2022年12月12日(月)

小松市

1. 立地候補エリア選定の議論の経過と今後の予定

1/15

(1) 基本構想策定委員会で立地候補エリアについて意見を集約(令和5年2月)

① 第3回策定委員会(10月25日)での議論

- 7つのエリアについて5つの視点で検討・比較、議論を行った。
 - ▶ 「立地環境」「コンセプト」「施設整備」「公共施設マネジメント推進」「図書館サービスのバランス」(委員からの意見)
 - ▶ 立地場所は、市民にとっても大変関心が高いテーマであり、アクセスの容易性は大切。
 - ▶ 未来型図書館のコンセプトを表現することができ、そのもとで機能・サービスを提供できれば人は集まる。
 - ▶ 小松駅利用者数など客観的データ、人流も含めて検討を行う必要がある。
 - ▶ ①芦城公園周辺 ②小松駅周辺 ③小松運動公園周辺 の3エリアが候補として妥当ではないか。

② 第4回策定委員会(12月12日)で議論を深める

- ▶ ①②③の3エリアについて、立地環境・コンセプト等の観点から引き続き議論を行う。

本日の議論

③ 第5回策定委員会(2月6日)で意見集約

- ▶ 数ヶ所に絞り込み



地図データ©2017Google Earth

(2) 市で総合的な観点から立地候補エリアを決定

項目	時期	令和4年6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			令和5年1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
ビジョンの作成		前提・方向性の整理						共創によるビジョンの具体化						コンセプトの整理						ビジュアル化											
基本方針の作成		これまでの検討内容等、前提や課題の整理						施設計画に関する検討 多面的機能・立地候補エリアの検討						事業推進に関する検討 事業手法・立地エリア補検討						調整・ブラッシュアップ 立地候補エリアの意見集約											
基本構想策定委員会		第1回(6/28)			第2回(8/25)			第3回(10/25)			第4回(12月12日)			第5回(2月6日)																	
つながるミーティング		第1回(7/31)			第2回(9/17)			第3回(9/19)			第4回(12月10日)			第5回(2月5日)																	

2. 立地候補エリア(候補地)の検討にあたっての視点

2/15

(1) 新たな活気とにぎわいの創出、市民生活の利便性向上の視点

朱書き:今回追加資料の部分

(1) 都市機能誘導区域

- ▶都市機能誘導区域は、医療、福祉、商業等の都市機能を都市の中心拠点や地域拠点に誘導し集約することにより、これらの各種住民サービスの効率的な提供を図る区域。
 - ・市内では、中心拠点「小松駅地区」と地域拠点「粟津駅地区」が設定。
 - ・都市機能誘導区域内に誘導する施設には、図書館も含まれる。

(2) 周辺環境や交通アクセスの利便性

- ▶「公共交通・主な駐車場」及び「人流データ」を基にした候補エリアへのアクセスの利便性
 - ※人流データはYahoo! Japanの検索・位置情報のビッグデータの分析ツール「DS. INSIGHT」を活用

(2) 未来型図書館のビジョン・コンセプトと候補エリアの特徴との親和性の視点

(1) 図書館のビジョン・コンセプトとの親和性

- ▶「教育・文化」「科学・ものづくり」「スポーツ・健康」「新幹線・広域集客」「自然・環境・憩い」「地域の活性化・にぎわい・交流」など候補エリアの特性との親和性
- ▶「候補エリアの歴史等」を基にした未来型図書館との親和性

(2) 複合機能との親和性

- ▶図書館と親和性の高い、相乗効果が期待できる機能

(3) 事業手法(事業主体)・財政負担の視点

(1) 事業手法(事業主体)の多様性

- ▶公民連携・民間事業者の参画の可能性

(2) 財政負担の軽減

- ▶事業用地確保の容易性
- ▶補助メニュー・民間活力の活用の可能性

(4) 公共施設マネジメント推進の視点

(1) 公共施設マネジメント計画 基本方針(令和4年3月改訂)との整合性

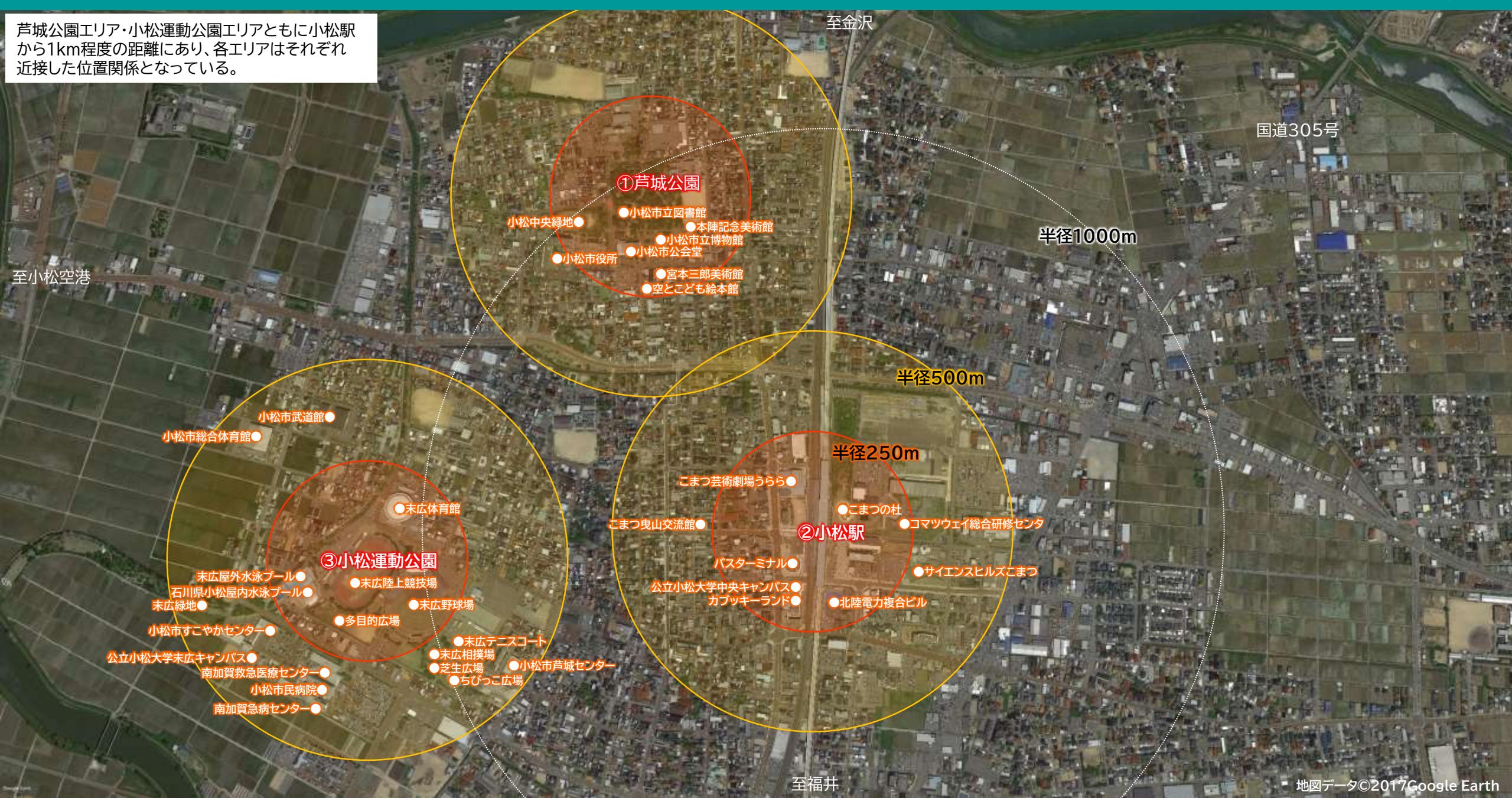
- ▶施設の機能と提供サービスの質の向上
- ▶適切な施設の保全
- ▶民間活力の積極的導入
- ▶施設の機能転換、統合、廃止、処分

(5) 市全域の図書館サービスのバランスの視点

2. 立地候補エリアの位置関係 (①芦城公園・②小松駅周辺・③小松運動公園周辺)

3/15

芦城公園エリア・小松運動公園エリアとともに小松駅から1km程度の距離にあり、各エリアはそれぞれ近接した位置関係となっている。



2. 立地候補エリアの公共交通・主な駐車場 (①芦城公園・②小松駅周辺・③小松運動公園周辺)

4/15

【JR小松駅の乗車人数】
 ・1日平均約4500人(R1)で定期利用者(通勤・通学)が58%。
【路線バス乗降者数】
 ・小松駅には16路線が乗り入れ、1日平均約1,000人。
 ・芦城公園周辺は4路線が乗り入れ、通学利用者が多い。
 ・小松運動公園周辺は、市民病院に7路線が乗り入れているが未広体育館周辺への乗り入れが少ない(1路線)。
【駐車場】
 ・小松駅周辺に有料駐車場が整備されている。
 ・芦城公園周辺は市役所・年金事務所等で約250台。
 ・小松運動公園周辺は約770台。

至小松空港



至金沢 JR小松駅乗車人数(1日平均)

	定期	定期外	合計
令和2年度	2,232	892	3,123
令和元年度	2,591	1,905	4,496
平成30年度	2,560	1,975	4,535
小松市統計書(西日本旅客鉄道(株)金沢支社)			

路線バス・コミュニティバス利用者数(1日平均)

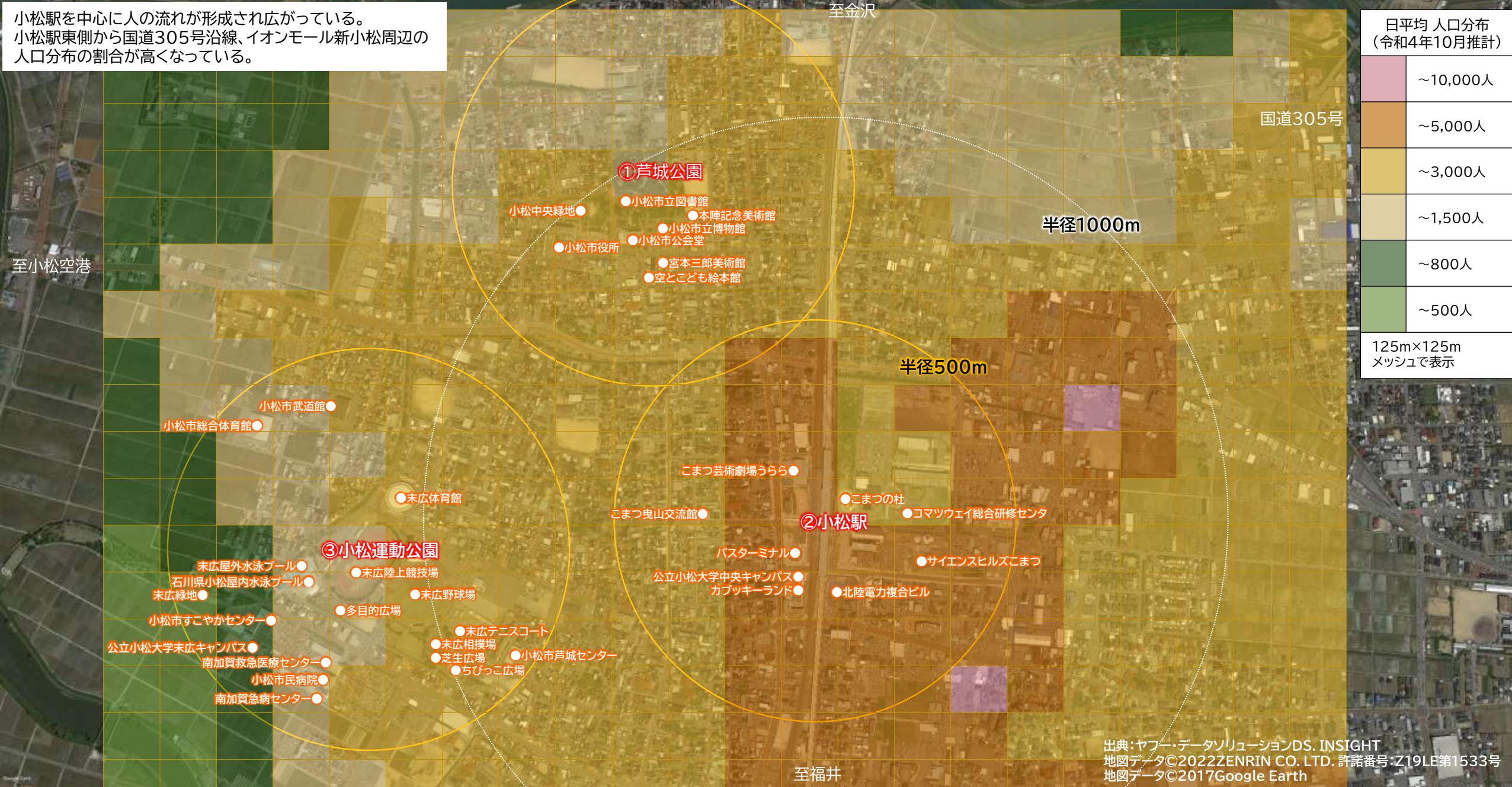
	バス停名	路線数	便数	乗降者数
芦城公園周辺	京町	4	46	53
	絵本館前	1	8	1
	松任町	2	22	0
	浜田町	2	42	4
	小松高校前	2	22	37
	小松駅	16	188	1,061
小松駅周辺	昭和通り	4	27	6
	龍助町	9	104	17
	西町	7	96	9
	日の出町	3	32	10
	土居原町	4	28	3
	本折町	6	45	6
小公園周辺	小松市民病院	7	50	50
	未広運動公園	1	8	2
	錦町	4	28	3

調査期間:路線バスは令和3年10月~12月
コミュニティバスは令和2年12月~3年2月

P 駐車場収容台数	名称	台数
芦城公園周辺	市役所駐車場	125
	年金事務所前	100
	図書館	32
小松駅周辺	小松駅前立体駐車場(有料)	306
	小松駅南駐車場(有料)	101
	ヒルズパーキング(有料)	89
	小松駅西立体駐車場(有料)	397
小公園周辺	未広体育館周辺	113
	野球場・水泳プール前	434
	テニスコート横	224

2. 立地候補エリアの人流データ ①芦城公園・②小松駅周辺・③小松運動公園周辺)

5/15



候補エリア① 芦城公園周辺の特徴等 (第3回策定委員会資料)

6/15

エリア特徴

生涯学習や文化振興の拠点となる文教エリア

- 市民の生涯学習や文化振興の拠点となる図書館、博物館、美術館、茶室をはじめ、市民活動の発表と交流の場を支える公会堂などが立地。四季折々の風情を感じられる和風庭園で市民の憩いの場ともなる。
- 公園内の図書館・公会堂・博物館では、老朽化や狭隘化の課題を抱えている。
- 公園周辺には、市役所等の行政施設、幼稚園・小学校・高等学校などの教育施設が立地する。

期待される効果

- 機能の複合(融合)による教育・文化・芸術の振興、多世代の交流、利用者層の拡大**
図書館と親和性の高い機能との複合で教育・文化・芸術・市民活動の横断的な交流の場を創造
- 芦城公園エリアのイメージ刷新**
老朽化の課題を抱える施設の複合化・集約化を図ることで都市公園のイメージを刷新
- 公共施設マネジメント推進**
施設の複合化・集約化を図ることで建設費・維持管理費を節減

検討課題

- 芦城公園全体の構想**
芦城公園全体の活用構想やニーズを踏まえた既存文化施設のあり方の検討、国(公園所有)との調整
- 事業手法・財源確保**
民間資金を活用したPFI方式・Park-PFIの導入可能性、整備に係る補助制度等の検討
- まち全体への波及効果をもたらす仕組みづくり**
図書館を中心とした複合施設を核に、情報発信やまちを回遊する仕組みづくり



芦城公園	市立図書館	公会堂	博物館	本陣記念美術館	空とこども絵本館	絵本館ホール	宮本三郎美術館	小松市役所	小松中央緑地
M37年(118年)	S56年(41年経過)	S34年(63年経過)	S43年(54年経過)	H2年(32年経過)	H18年(16年経過)	H18年(16年経過)	H12年(22年経過)	S62年(35年経過)	H2年(32年経過)
40,395.25m ²	1,840.29m ²	4,999.53m ²	2,129.37m ²	614.99m ²	602.60m ²	302.15m ²	1,272.79m ²	16,060.04m ²	11,383.60m ²
池泉回遊式庭園 前田利常公銅像 文化施設	書架(一般・児童) 視聴覚室 親子読書室 郷土作家コーナー	大ホール(1,078席) 大会議室(150名) 会議室(30~50名) 茶室、和室	小松城・九谷焼・石の 文化・北前船などの 資料展示 市民ギャラリー	本陣甚一氏寄贈コレ クション展示 黒川紀章設計	絵本コーナー 飲食可能ラウンジ 和室、畳の間 ボランティア活動スペース	松居直氏寄贈コレク ション収蔵 小ホール(60名) 洋室(貸部屋)	洋画家宮本三郎画伯 の作品を収蔵・展示 デッサン大賞展開催 ギャラリーカフェ併設	市民サービス窓口 事務所等	芝生広場 遊具
-	60,066人	74,960人	23,975人	4,260人	26,840人	-	6,649人	-	-

芦城公園の開設

- 芦城公園は小松城三の丸があった場所で、江戸末期・明治初期の小松城の廃城後、明治5年(1872)から明治36年(1903)まで小松懲役場が置かれた後、明治37年(1904)に跡地が国から無償貸与され、芦城公園が開かれた。

小松の行政の中心地

- 小松城があった江戸時代には町奉行や町会所が置かれた。
- 廃城後の明治22年(1889)には小松町役場が現在の年金事務所あたりに置かれ、昭和15年(1940)の市制施行に伴い小松市役所とされた。昭和27年(1952)には市役所庁舎が現在の公会堂の南隣に移転し、その後昭和63年(1988)に現庁舎に移転している。

図書館が親しまれてきた場所

- 大正7年(1918)に能美郡立図書館が芦城公園内の物産陳列館内で開館。
- 昭和15年の市制施行に伴い、2町5村立図書館が芦城小学校内の旧小松町立図書館に集約された。昭和27年に旧市役所庁舎に移転し独立図書館として運営を開始。昭和28年(1953)には本陣記念美術館辺りに館舎が整備された。昭和45年(1970)の中央公民館(現博物館)の完成に伴い同館に移転。昭和56年(1981)に現図書館が開館している。
- また、昭和46年(1971)に芦城公園周辺の小松警察署の移転後、建物は市教育庁舎となった後、現在空とども絵本館として利用されている。

文化が集積するエリア

- 昭和33年(1958)に県内登録博物館第1号となる小松市博物館が開館。建物は芦城公園内の旧能美郡自治館を移築(曳家)しリノベーションされた。昭和45年には中央公民館(現博物館)が新築された。
- 昭和34年(1959)には小松市公会堂が開館したほか、平成2年(1990)に本陣記念美術館、平成9年(1997)に仙叟屋敷ならびに玄庵、平成12年(2000)に宮本三郎美術館がそれぞれ開館し、公園内外は、市民の文化と芸術の振興と交流の場となっている。
- この他、周辺の町内会では、江戸時代から250年以上の歴史を誇る曳山子供歌舞伎が継承されている。

公園・広場:芦城公園(都市公園)

用途地域:主に第二種住居地域(建蔽率60%・容積率200%)、その他近隣商業地域(建蔽率80%・容積率200%)



芦城公園入口(明治39年当時)



小松市役所(昭和15年当時)
昭和27年に図書館として利用



芦城公園野球場(昭和20年代中頃)



小松市立図書館館舎完成(昭和28年)



小松市立博物館が開館(昭和33年)



小松市公会堂が開館(昭和34年)



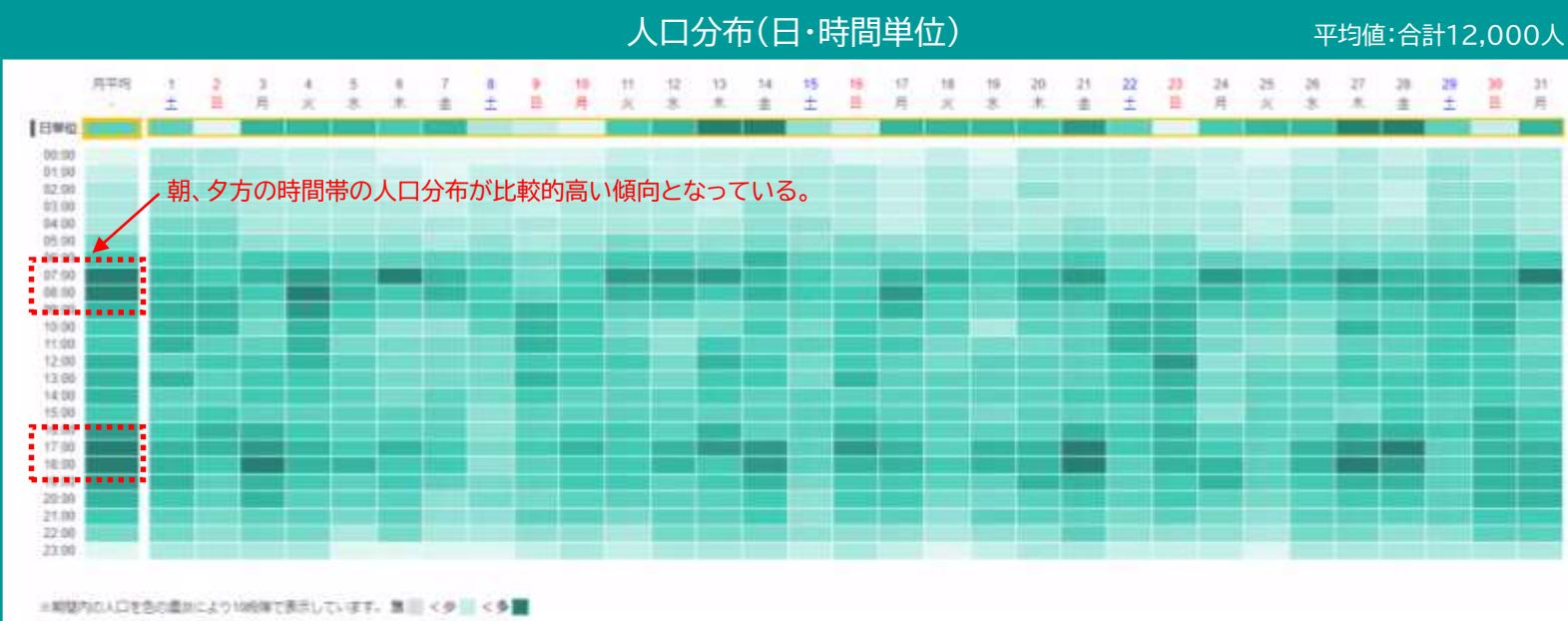
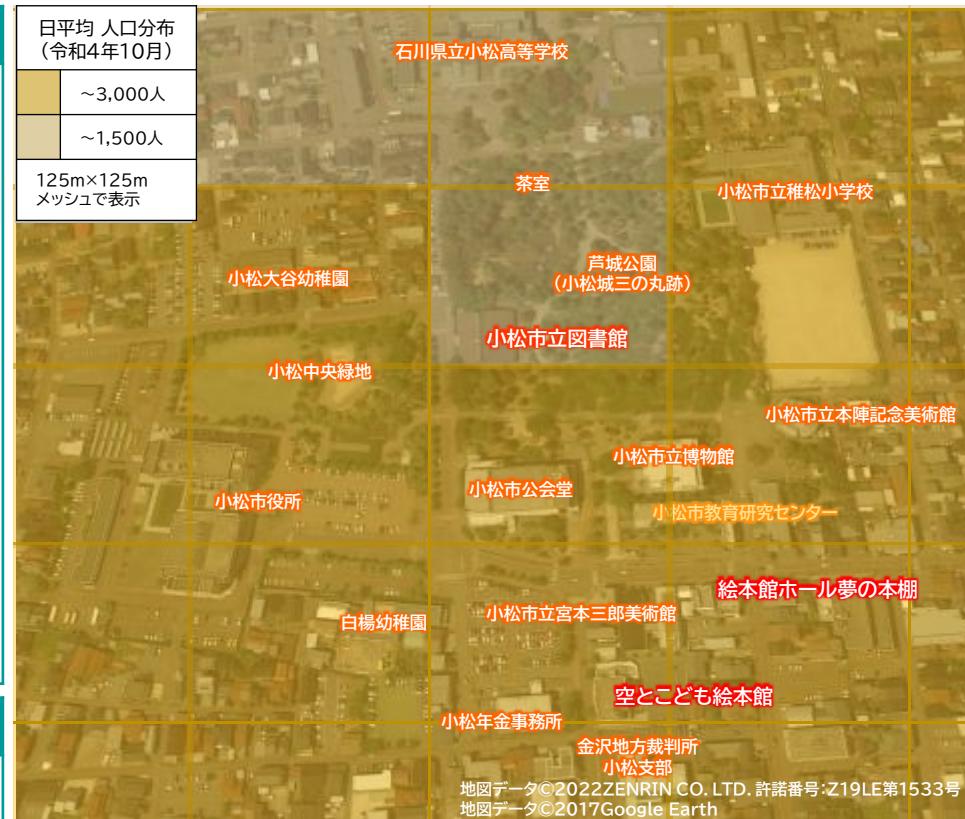
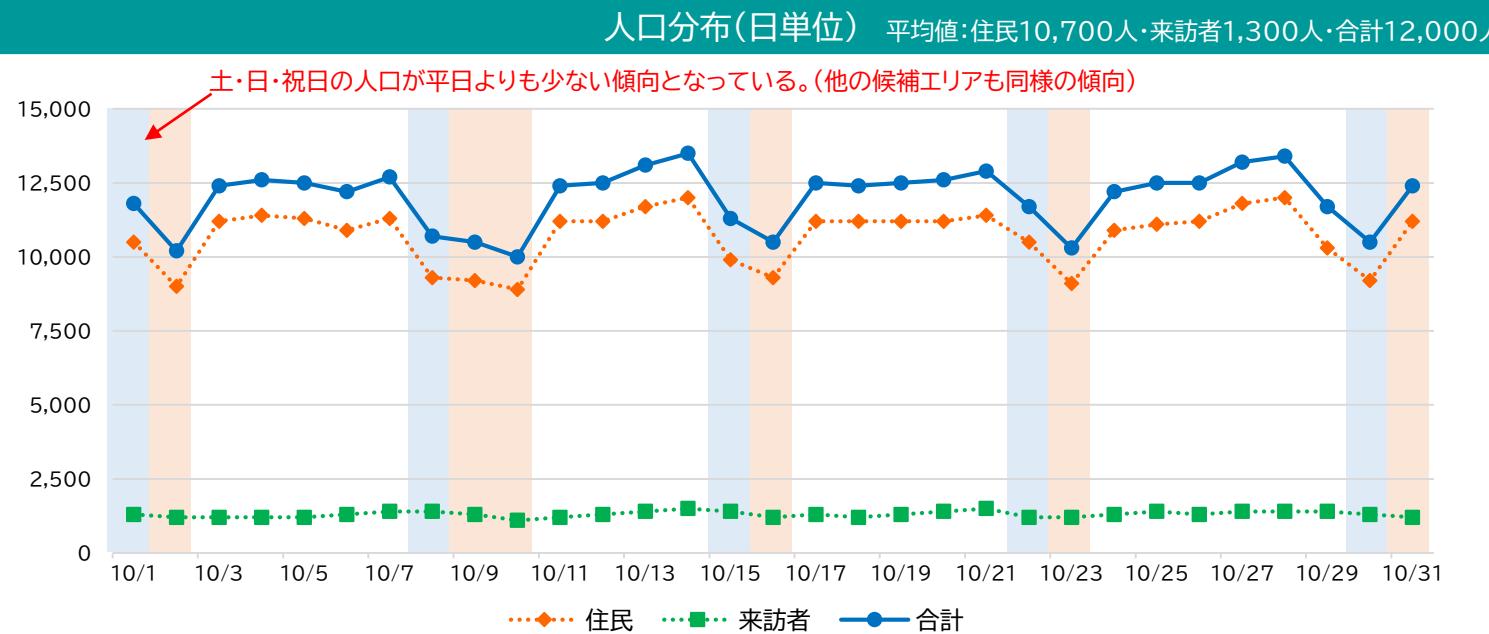
中央公民館3階の市立図書館(昭和45年)



市教育庁舎(昭和46年当時)
現在は空とども絵本館

候補エリア① 芦城公園周辺の人流データ (令和4年10月:芦城公園半径500m)

8/15



人口割合(年代別) 合計12,000人の内訳

2,800	800	1,100	1,700	1,600	1,500	2,500
■10代以下	■20代	■30代	■40代	■50代	■60代	■70代以上

来訪者住所(月平均) 1,300人の内訳上位

平日	①能美市 (390)	②金沢市 (230)	③加賀市 (180)	④白山市 (140)	⑤野々市市 (30)
休日	①能美市 (400)	②加賀市 (170)	③金沢市 (160)	④白山市 (110)	⑤福井市 (30)

出典:ヤフー・データソリューションDS. INSIGHT

候補エリア② 小松駅周辺の特徴等（第3回策定委員会資料）

9 / 15

工 特 徴	<p>未来を担うひとづくりや交流の拠点となるエリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公立小松大学やカブッキーランド、曳山交流館、こまつの杜、サイエンスヒルズなど、生涯を通じた「学び」の施設が立地。駅西地区は、伝統芸能・文化振興、駅東地区は、科学・ものづくりをテーマとした人材育成の拠点。 ○ 各施設の利活用の促進、回遊性創出や商店街エリアの活性化などの課題を抱えている。 ○ 北陸新幹線小松駅開業や高架下観光交流センター、北陸電力複合ビルの整備が計画されている。
期待される効 果	<p>① 機能の複合(融合)による教育・文化・科学の振興、多世代の交流、利用者層の拡大 図書館と親和性の高い機能との複合で教育・文化・科学・市民活動の横断的な交流の場を創造</p> <p>② まちの玄関口・駅周辺の拠点性の向上 新たなシンボルの誕生と周辺施設との回遊性創出により「学び・ひとづくり」のエリアの拠点性が向上</p> <p>③ 新幹線開業・公共交通の利便性を活かした市内外からの集客 新幹線開業を活かした広域からの集客、駅利用者や学生利用の利便性が向上</p>
検討課題	<p>① 事業用地の確保・複合機能の検討 活用可能な事業用地や施設・複合機能の検討</p> <p>② 事業手法・財源確保 民間資金を活用したPFI方式の導入可能性、整備に係る補助制度等の検討</p> <p>③ まち全体への波及効果をもたらす仕組みづくり 図書館を中心とした複合施設を核に、情報発信やまちを回遊する仕組みづくり</p>



1997-98 30100 miles First

北陸新幹線小松駅	観光交流センター	こまつ芸術劇場うらら	こまつ曳山交流館	こまつAZスクエア	市民交流プラザ	コマツ総合研修センタ	こまつの杜	サイエンスヒルズ	北陸電力複合ビル
R6年春開業	R5年春開業	H16年(18年経過)	H25年(9年経過)	H27年(7年経過)	H18(16年経過)	H23(11年経過)	H23年(11年経過)	H25年(9年経過)	R7年開業予定
2,200m ²	1,443m ²	7,791m ²	817.97m ²	9,414m ²	773.69m ²	敷地11,500m ²	敷地27,000m ²	6,036.71m ²	16,512m ²
「ふるさとの伝統を未来へつなぐターミナル」 靈峰白山の山並みを表現 地域産材を活用した空間	カフェ 観光案内・物産販売 ワークラウンジ 情報ラウンジ	大ホール(851席) 小ホール(250席) 会議室、ギャラリー 物産販売、行政窓口	曳山展示(2基) 十八番舞台 展示コーナー ギャラリー	公立小松大学 カブツキーランド ホテル カフェ、英会話教室	ホール(250名) ステージ、ミーティングルーム ラジオスタジオ 健康交流フロア	コマツ社員研修工エリア 大中会議室(2室) 大中小研修室(12室) テクノトレーニングセンタ	一般開放工エリア 大型建機展示・搭乗 理科・ものづくり教室 里山での自然観察	3Dドームシアター 科学体験展示 イベントホール 実験・工作ラボ	オフィス 多目的ホール 大学院 ホテル、店舗
—	—	92,335人	42,579人	—	17,541人	—	—	125,577人	—

弥生時代の北陸地方を代表する拠点集落「八日市地方遺跡」

- 八日市町地方・日の出町に位置し、昭和5年(1930)に発見された弥生時代中期を中心とする集落。まわりを多重の濠(ほり)で囲んだ環濠(かんごう)集落で、遺跡面積は15万m²を超えると推測され、同時期の北陸では最大規模を誇る。遺跡からは人々の生活やものづくり、広域な地域間交流を示すものなどが出土しており、平成23年には、小松市所蔵資料1,020点が重要文化財に指定された。

小松駅の開業

- 小松駅がある土居原の地名は、土堤(土居)がある野原であったことが由来といわれ、明治30年(1897)に小松駅が開設してから活況を呈したエリア。
- 明治30年(1897)に北陸線の福井・小松間が開通。翌年には小松・金沢間が開通。明治40年(1907)には遊泉寺銅山専用鉄道が開通(～大正9)、大正8年(1919)には尾小屋鉄道が開通(～昭和52年)、昭和4年(1929)には白山電鉄小松・遊泉寺間が開通(～昭和61年)した。
- 昭和7年(1932)に橋南の大火で小松駅は全焼したが、翌昭和8年(1933)に復旧新築された。昭和41年(1966)に改築された後、平成5年(1993)から小松駅周辺3点セット事業が始まり、平成14年(2002)に小松駅高架開通とともに新駅舎がオープンし現在に至っている。

商工業・人材育成の拠点

- 大正5年(1916)に小松駅東側に設立された小松鉄工所は、大正10年(1920)に小松製作所となり、ブルドーザーなど重機製造を通じて世界的な建設機械メーカーとなり、本市の産業を支えている。平成22年(2010)の小松工場閉鎖の後、翌平成23年(2011)にコマツ総合研修センタ・こまつの杜がオープンし、グローバルな人材育成の拠点とともに、ものづくりの歴史を伝え、理科教室・社会見学などを通じた子どもの健全育成の場となっている。
- 昭和24年(1949)頃から1町あるいは街路沿いの数町を単位に商店街が形成された。さらに昭和45年(1970)に小松駅前に商業ビル(こまビル)が開店、昭和50年(1975)には商業ビル(西友。平成10年から小松大和)が開店した。現在は、こまつアズスクエアが平成29年(2017)にオープンし、平成30年(2018)に開学した公立小松大学中央キャンパスとして、高等教育、生涯学習の場となっている。
- 平成16年(2004)にこまつ芸術劇場うららが開館したほか、平成18年(2006)には市民交流プラザ「ザ・マツツ」、平成25年(2013)には曳山交流館が開館するなど、文化振興の場となっている。

公園・広場:こまつの杜

用途地域:主に商業地域(建蔽率80%・容積率400%)、その他近隣商業地域(建蔽率80%・容積率200%)など



八日市地方遺跡発掘調査(平成5～12年)



小松白山電鉄小松駅(昭和初期)



小松停車場(昭和12年当時)



小松駅前(昭和34年頃)



小松製作所(昭和37年頃)



小松駅の改築完成(昭和41年)



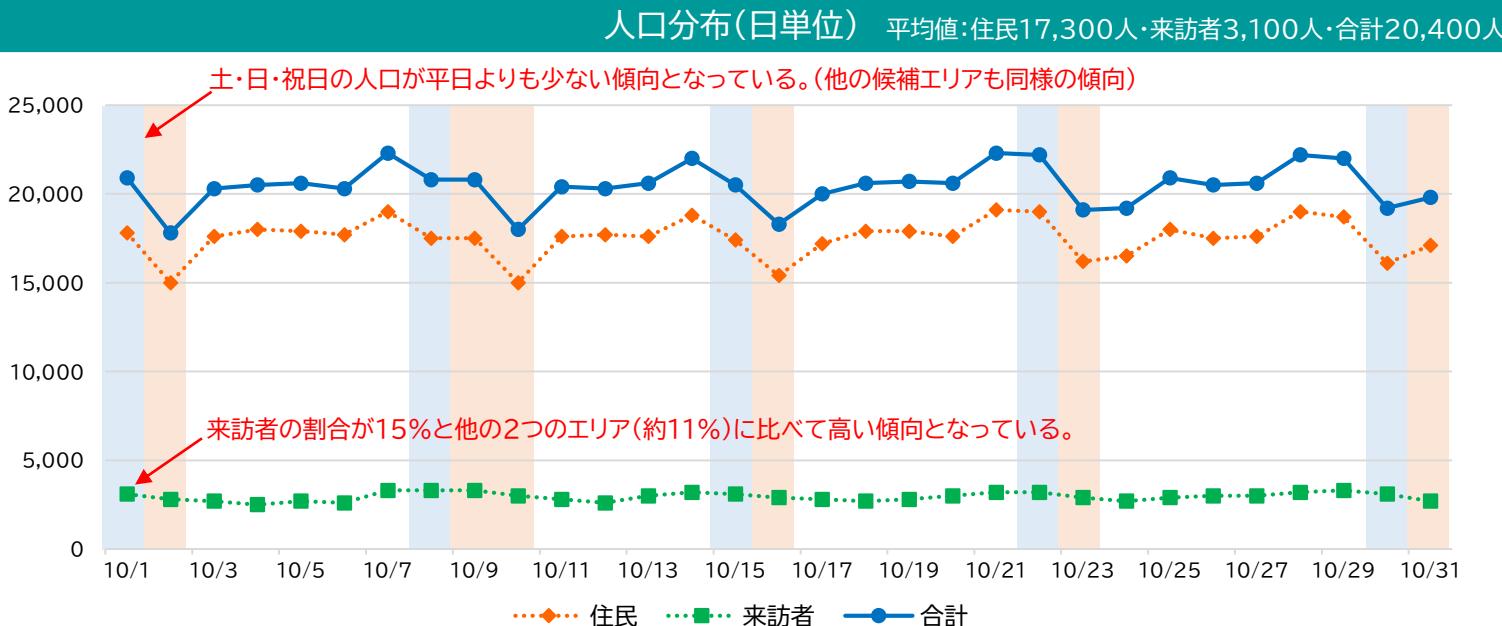
三日市商店街(昭和50年)



小松駅前(昭和52年)

候補エリア② 小松駅周辺の人流データ (令和4年10月:小松駅半径500m)

11/15



人口割合(年代別) 合計20,400人の内訳

6,100	2,100	1,900	2,700	2,200	2,000	3,400
■ 10代以下	■ 20代	■ 30代	■ 40代	■ 50代	■ 60代	■ 70代以上

来訪者住所(月平均) 3,000人の内訳上位

平日	①能美市 (550)	②金沢市 (500)	③加賀市 (490)	④白山市 (270)	⑤野々市市 (80)
休日	①能美市 (650)	②加賀市 (510)	③金沢市 (380)	④白山市 (250)	⑤福井市 (80)

出典:ヤフー・データソリューションDS. INSIGHT

候補エリア③ 小松運動公園周辺の特徴等 (第3回策定委員会資料)

12/15

エリニア の特徴

市民からアスリートまでが集うスポーツ交流エリア

- 市民の各種スポーツ大会からプロのスポーツイベントまで開催され、スポーツを通じた健康増進と競技力の向上の拠点となるエリア。周辺には、公立小松大学や芦城センターなど学びの施設が立地するエリアもある。
- 各施設は改修等が行われているが、施設維持・長寿命化・民間活力導入等の課題を抱えている。
- エリア内の「ちびっ子広場」では大型複合遊具整備が計画されている。

期待される 効果

① 機能の複合(融合)による多目的な利用の拡大

図書館とスポーツ・学びの機能との複合・連携で多目的な活用・サービス提供の場を創造

② 運動公園エリアの拠点性の向上

新たなシンボルの誕生と周辺施設との回遊性創出により運動公園の拠点性が向上

③ 公共施設マネジメント推進

施設の複合化・集約化を図ることで建設費・維持管理費を節減

検討課題

① 事業用地の確保・スポーツ施設全体の最適化の検討

活用可能な事業用地や施設・複合機能(融合による効果)の検討、スポーツ施設全体の最適化の検討

② 事業手法・財源確保

民間資金を活用したPFI・Park-PFI方式の導入可能性、整備に係る補助制度等の検討

③ まち全体への波及効果をもたらす仕組みづくり

図書館を中心とした複合施設を核に、情報発信やまちを回遊する仕組みづくり



地図データ © 2017 Google Earth

未広体育館	未広陸上競技場	未広野球場	未広テニスコート	多目的広場	ちびっ子広場	武道館	公立小松大学	すこやかセンター	芦城センター
S38年(59年経過)	S59年(38年経過)	H20年(14年経過)	H13年(21年経過)	H10年(24年経過)	H15年(19年経過)	H2年(32年経過)	R元年(3年経過)	H6年(28年経過)	H9年(25年)
6,497.97m ²	敷地20,586m ²	8,525.91m ²	10,806.5m ²	9,414m ²	2,100m ²	5,136m ²	5,492.34m ²	1,385.81m ²	2,097m ²
体育館フロア ランニングコース 会議室(3室)	トラック(1周400m) インフィールド 投てき場	グラウンド(両翼99.1m) 観客席(6,000席) 室内練習場 会議室(2室)	人工芝コート(14面) 管理棟	グラウンド	「みんなと一緒に遊べる広場」をコンセプトに大型複合遊具リニューアル(R5)	体育室、剣道場 柔道場、弓道場 研修室(3室) リカバリールーム	保健医療学部講義 室・研究室・実習室 食堂 附属図書館	健康診査 健康相談 予防接種	オフィス 多目的ホール 大学院 ホテル、店舗
94,659人	54,938人	93,503人	49,354人	5,438人	—	63,824人	—	—	55,615人

元競馬場敷地から総合運動公園へ

- 小松運動公園は、昭和12年(1937)に開設された小松競馬場の跡地で、昭和24年(1949)の競馬場廃止後、小松市が取得し埋立工事を実施(昭和26年完了)した。
- 小松市では当時、体育の振興が重要であるという観点から、北陸一の競技場をつくろうと、各種目の競技場を1ヶ所に集中させた小松運動公園の整備に取り組んだ。昭和27年(1952)から建設工事が始まり、陸上競技場、野球場、水泳場、相撲場、弓道場、屋外球技場(テニスコート、バレー・ボルコート)が昭和34年(1959)頃までに完成した。
- 昭和37年(1962)には、小松空港と航空自衛隊小松基地完成を記念して、小松博(伸びゆく日本・産業と防衛大博覧会)が開催された。小松基地のほか、未広運動公園では、陸上競技場、野球場、建設中の未広体育館(昭和38年完成)が会場となったほか、小松商店会連盟も協賛し博覧会を盛り上げた。
- 昭和46年(1971)に市立武道館、昭和50年(1975)に県立小松屋内水泳プール等が建設され、その後、施設改修や建て替え等が順次行われてきており、年間を通して市民の各種スポーツ大会からプロのスポーツイベントが開催されている。

エリアの歴史等

健康・交流ゾーンへ

- 昭和58年(1983)には、旧梯川跡を活用した未広緑地が開園した。豊かな緑に囲まれながら、白山を眺望でき、季節を感じることができる緑地となっている。
- 平成26年(2014)には、未広野球場(弁慶スタジアム)前に、ベルギー・ビルボルド市との姉妹都市40周年を記念したバラ園もオープンし彩りを添えている。
- 小松運動公園に隣接するエリアには、平成元年(1989)に小松市民病院が新築移転された。南加賀急病センター(平成19年)や南加賀救急医療センター(平成24年)も併設され、地域住民へ安心な医療を提供している。
- 令和元年(2019)には公立小松大学未広キャンパスが開設され、保健医療を支える人材育成の拠点となっている。

公園・広場:小松運動公園、未広緑地

用途地域:主に第二種住居地域(建蔽率60%・容積率200%)、その他第一種住居地域(建蔽率60%・容積率200%)



小松競馬場(昭和13年当時)



未広野球場(昭和32年)



建設中の未広体育館(昭和37年)



小松博(昭和37年)



市立武道館(昭和46年)



未広陸上競技場(昭和50年)



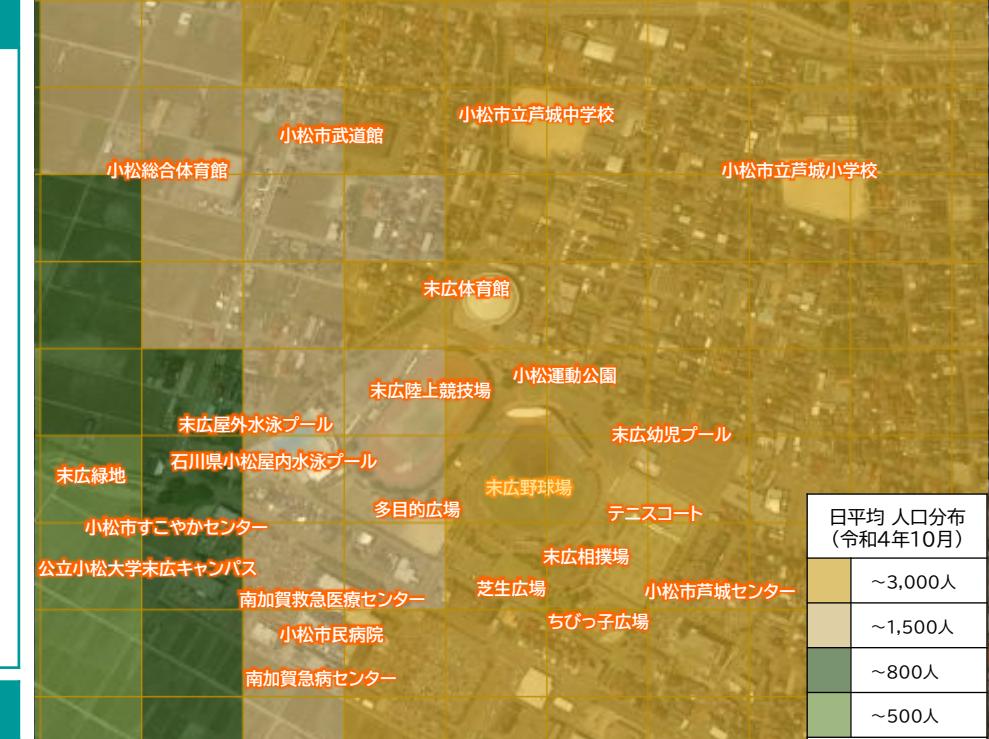
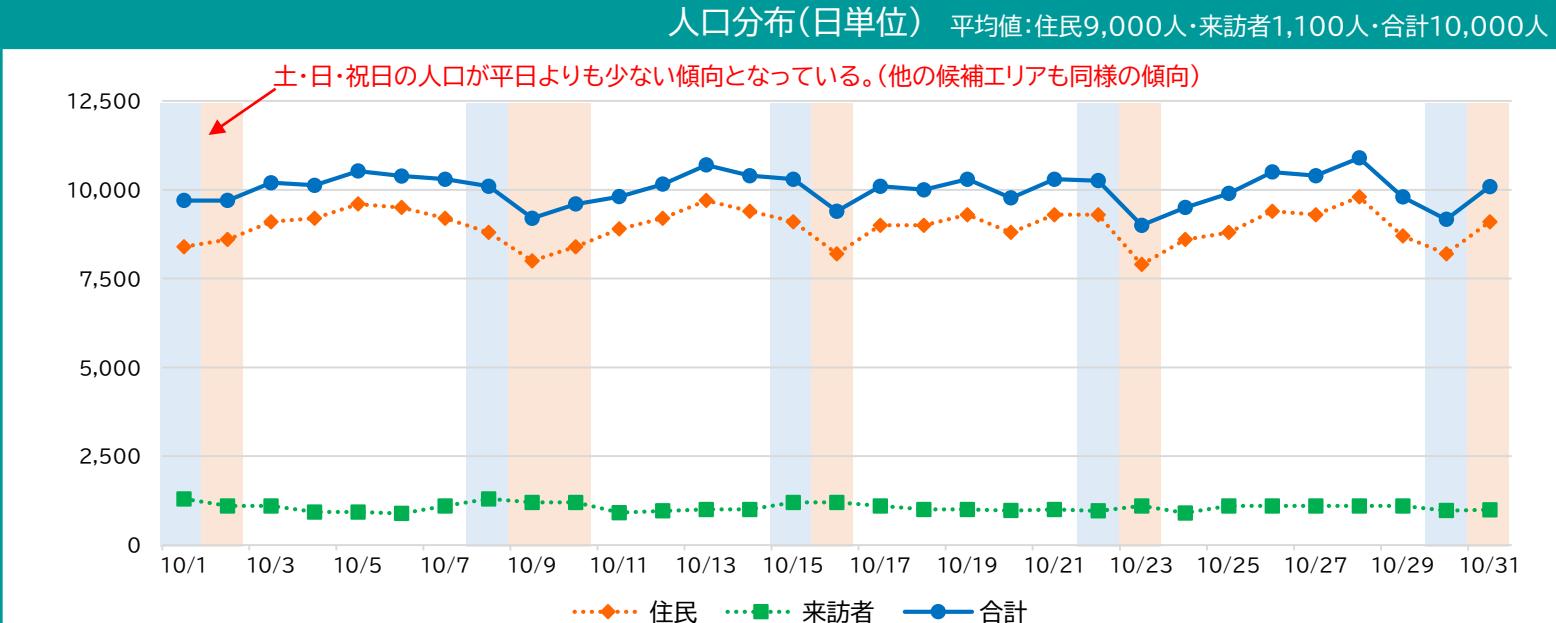
県立屋内水泳プール(昭和50年)開館



未広緑地開園(昭和58年)

候補エリア③ 小松運動公園周辺の人流データ (令和4年10月:小松運動公園半径500m)

14/15



3. 立地候補エリアの比較

15/15

項目	細項目	① 芦城公園周辺	② 小松駅周辺	③ 小松運動公園周辺
1. 立地環境 新たな活気と にぎわい創出 市民の利便性向上	立地適正化計画 (都市機能誘導区域)	都市機能誘導区域内	都市機能誘導区域内	都市機能誘導区域内
	周辺環境・回遊性	文教施設が集積 人流(人口分布)が2番目に高い	官民の施設が集積 人流(人口分布)が最も高い	スポーツ施設が集積 人流(人口分布)が最も低い
	アクセスの容易性	駅から約1km 路線バス近接(4路線)	公共交通の結節点 路線バス発着(16路線乗入)	駅から約1km 路線バス少ない(体育館周辺は1路線)
	駐車場確保の容易性	市役所等駐車場有(約250台)	駅周辺駐車場有(900台以上)	運動公園駐車場有(約770台)
	防災性(浸水想定区域)	浸水深0.5~3m	浸水深0.5~3m	浸水深0.5~3m
	評価	○	◎	○
2. コンセプト 未来型図書館のビ ジョン等との親和性	ビジョン等との親和性	周辺の資源が豊富 <small>歴史:行政の中心地・図書館が親しまれてきた場所</small>	周辺の資源が豊富 <small>歴史:広域交流、商工業・人材育成の拠点</small>	周辺の資源豊富 <small>歴史:運動・健康づくりの拠点</small>
	評価	◎	◎	◎
3. 施設整備 事業手法・財政負担	民間事業者の参画の 可能性	今後検討	今後検討	今後検討
	事業用地確保の 容易性	今後検討	今後検討	今後検討
	整備財源の活用の 可能性	今後検討	今後検討	今後検討
	評価	—	—	—
4. 公共施設マネジ メント推進	マネジメントの推進	文化施設等との複合	学びの施設等との複合	スポーツ施設等との複合
	評価	◎	○	◎
5. 図書館サービス のバランス	市全域のバランス	中心部	中心部	中心部
	評価	◎	◎	◎

事務局による評価(3段階で評価) ◎:評価が高い、有効である ○:普通 △:評価が低い、あまり有効ではない